

◇あとがき◇

2025年、新年あけましておめでとうございます。
昨年9月、歴史ある雑誌「小児外科」の編集委員を北川博昭先生から引き継ぎましたので、私にとって初めての「あとがき」となります。1996年、故・中田幸之介先生に憧れ、小児外科の道を歩み始めました。それから早くも30年が経とうとしています。当時を振り返ると、食道閉鎖術後の管理では、リカバリールームで患者を深く鎮静させ、呼吸器合併症を防ぐために1時間おきに看護師と気管内吸引を行っていた日々が、まるで昨日のこのように思い出されます。その後、新生児の術前・術後管理はNICUに移り、新生児科医や小児循環器内科医、看護師たちの知識や技術が結集されることで治療成績が向上しました。新生児の管理は外科疾患だけでなく内科疾患も含め、非常に繊細で手間のかかるものでした。

2024年4月から働き方改革が始まりましたが、小児外科医にはどのような変化がもたらされたのでしょうか。30年前のように重症患者の術後に何日も昼夜をともにするような管理は、今や当然ながら御法度となっています。しかし、あの“ブラック”な働き方が、現在の私の基礎を築き、患者の状況判断能力を養ってくれたと感じています。現代は情報が溢れかえっていますが、それらを整理して効率よく治療に結びつけることが、より“ホワイト”な働き方を可能にしていると感じます。

さて、今回の特集は「極・超低出生体重児の治療戦略」です。小児外科医を目指すきっかけとして、新生児手術に魅了された先生も多いのではないのでしょうか。4年ごとに日本小児外科学会から報告される新生児死亡率は年々低下しており、2018年の報告では消化管穿孔の死亡率が10.4%で最高値となっています。しかし、極・超低出生体重児の手術となると各施設での経験数が限られるため、治療のタイミングや術式の決定には頭を悩ませることも少なくありません。今回の特集では、皆さまの貴重な経験を共有いただき、極・超低出生体重児の診療に役立ていただければと思います。

(古田繁行)

本誌広告取扱い

文芸社 〒113-0033 東京都文京区本郷 3-26-1

本郷宮田ビル 5階

TEL 03-3814-8541 (代) FAX 03-3816-0415

・本誌に掲載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権（送信可能化権を含む）は（株）東京医歯学社が保有します。

・【JCOPY】＜出版者著作権管理機構 委託出版物＞

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に一般社団法人出版者著作権管理機構（TEL 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, e-mail : info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。

「小児外科」第57巻第2号（2025年2月号）

特集 臓器損傷治療の工夫

【総論】 小児腹部実質臓器損傷の臨床的特徴……………長野 綾香 単施設における小児腹部外傷に対する 治療成績の後方視的検討……………松寺翔太郎	【周産期】 分娩外傷による新生児脾破裂……………木村 浩基
【呼吸器】 気管切開チューブの迷入による気胸、縦隔気腫、腹腔内気腫……………安部 孝俊 外傷性肺挫傷・気管支損傷……………筒野 喬	【消化管】 胃穿孔術後の創感染/腹壁離開/遺残膿瘍に対し AbThera ドレッシングキットによる腹部開放管理……………笈田 諭 胃十二指腸穿孔における治療および臨床経過……………海老原 統基 外傷性空腸穿孔に対する腹腔鏡手術……………久山 寿子 腹部鈍的外傷後の遅発性小腸狭窄……………三好 きな 受傷から腹痛を認めるまでに時間を要した回腸穿孔の1例……………畑 中正博 磁石誤飲による横行結腸穿孔……………加藤 大幾
【肝胆脾臓】 肝損傷……………形見 祐人 先天性胆道拡張症における術中肝門部 胆管損傷の予防と対策……………小林 隆 外傷性脾臓損傷……………佐々木 隆士 主脾管断裂を伴う小児Ⅲb型外傷性脾臓損傷 に対する ERP を含む非手術療法……………浅井 武 外傷性脾臓損傷（Ⅲb）が疑われた急性脾炎を初発とした 脾・胆管合流異常/先天性胆道拡張症の一幼児例……………嶋村 藍 外傷性脾臓損傷Ⅲb型に対する内視鏡治療……………土屋 智寛 外傷性巨大脾臓に対する腹腔鏡下全摘除術……………奥村 健児 成人と比較した小児重症脾臓損傷に対する non-operative management……………熊谷 知子	【泌尿・腎臓】 血管損傷を伴った外傷性副腎損傷の一例……………山形 健基 腎損傷……………亀井 一輝, 山内 健
【泌尿器】 長期的な腔内異物留置に伴う複雑性小児膀胱 尿管腔瘻の1例……………田中 里奈 外傷性精巣破裂……………黒部 仁 医原性の包皮内板損傷により緊急手術をきたした 閉塞性亀頭包皮炎（BXO）……………亀井 尚美	【外陰部・体表】 当科で経験した女児陰部外傷例の検討……………今治 玲助 尿道・陰損傷が疑われた女児陰部外傷……………生野 猛 外傷性 Spigel ヘルニアに対する腹腔鏡治療……………盛島 練人
【手術手技】 腹部開放創陰圧治療法システムによる open abdominal management……………榎屋 隆太	

名誉編集委員	秋山 洋	石原 通臣	岩中 督
	大沼 直躬	大谷 俊樹	角田 昭夫
	土岐 彰	長島 金二	橋都 浩平
	山崎 洋次	横森 欣司	北川 博昭
編集委員	黒田 達夫	浮山 越史	金森 豊
	越永 従道	世川 修	渡井 有
	古田 繁行		

小児外科

第57巻第1号

©2025年1月25日発行

定価 3,190円（本体 2,900円＋税 10%）

編集 小児外科編集委員会
発行 株式会社 東京医歯学社

〒112-0006 東京都文京区小日向 4-5-16

URL <https://www.tokyo-igakusha.co.jp>

編集部 TEL 03-5810-1648 FAX 03-5810-1649

e-mail : shoge@tokyo-igakusha.co.jp

営業部 TEL 03-5810-1628 FAX 03-5810-1629

e-mail : hanbai@tokyo-igakusha.co.jp

2025年前金予約購読料 1年分 49,280円（本体 44,800円＋税 10%）

（小児内科・小児外科 合同増刊号を含む）

*送料は前金予約購読の方のみ弊社負担です